

平成27年度 第1回健康づくり支援部会 議事録

日 時：平成27年11月30日（月）

審議会終了後

場 所：帯広市役所 10階 第4会議室

● 会議次第

1. 開会

2. 会議

- (1) 前回会議の議事録（案）の確認
- (2) 平成26年度 健康推進課決算について
- (3) 平成26年度 保健事業について
- (4) 第二期けんこう帯広21の進捗について
- (5) その他

3. 閉会

- 出席委員：井出渉委員、吉村典子委員、金須俊雄委員、山本勝弘委員、高橋きみ子専門委員、角谷巍啓専門委員、有岡秀専門委員、

● 議事録

○ 事務局

皆さま、こんばんは。

ただいまから、平成27年度第1回健康づくり支援部会をはじめさせていただきます。

本日の委員の出席は健康づくり支援部会、委員8名中、7名のご出席をいただいております、出席人数が委員の過半数を超えていますことから、本日の部会は成立しております。

それでは、これよりの議事進行につきましては、井出部会長にお願いいたします。

○ 部会長

それでは会議に入らせていただきます。まず、前回会議の議事録の確認について、議題といたします。この議事録は、この場でご確認いただいた後、公開される予定となっております。議事録につきまして、ご質問やご意見があればお願いします。

特にないようですので、会議録は了承されたものといたします。

○ 部会長

次に、平成26年度決算について、議題といたします。事務局、説明願います。

○ 事務局

資料1についてご説明させていただきますが、平成26年度健康推進課決算に関わる資料でございます。総事業費は11億3千845万4,829円でした。その内訳としましては、資料左側の「保健衛生総務費」の総額3億2千770万8,965円ですが、中身につきましては、主に「保健衛生推進費」は健康まつり負担金、重度心身障害者歯科治療事業補助金、難病連十勝支部事業費補助金等となっております。

「食・運動改善推進費」は、食生活改善推進員と健康づくり推進員の養成・育成事業費となっております。

「公衆浴場対策費」は、市内の公衆浴場活性化のための事業費でございます。

「訪問看護促進費」は、北海道在宅医療ケア事業団の会費となっております。

その下は、大正と川西にゲートボールができる施設がございまして、健康増進センターとなっておりますが、その2箇所の運営費でございます。

高等看護学院につきましては十勝の19市町村で運営しておりますが、1年間の分担金となっております。また、市内に2箇所ある看護師養成機関に対します補助金についても計上させていただいております。

帯広厚生病院の運営費補助であります。これも管内19市町村で支援を行っているところでございます。

介護老人保健施設整備補助については、平成24年度から行っている市内の介護老人保健施設の補助でございます。

「保健福祉センター費」の4千588万2,838円ですが、これは保健福祉センターの管理費であります。

次に、資料右側「予防費」ですが、総額で4億8千883万7,090円であります。中身としましては「がん検診、健康診査費」ということで、各種がん検診ですとか、国の事業であります無料クーポン券事業、市民健康診査、肝炎ウイルス検診などになっております。また、「予防接種費」につきましては、現在行われております定期接種にかかる費用となっております。

「感染症予防費」につきましては、65歳以上の高齢者及び中学3年生、高校3年生に対する季節性インフルエンザ予防接種と、65歳以上5歳刻みの高齢者に対し、平成26年度10月から開始となりましたら、成人用肺炎球菌ワクチン予防接種、エキノコックス症検査等となっております。

「結核予防費」については、結核検診でございます。

「健康相談費」、これには精神科医師と心理相談員への報酬、報償費などが含まれます。

「健康教育費」につきましては、私どもが実施しております各種講座の費用であります。また、「自殺対策費」として、平成26年度から、自殺対策講演会と若年女性向け講座を行っております。

最後に、「夜間急病診療費」総額で2億7千602万5,936円であります。中身としましては、「夜間急病センターの管理運営費」のほか、「救急医療対策費」としまして二次救急医療、休日歯科診療業務、急病テレホンセンターなどの運営費が含まれております。

これが26年度の決算の概要でございます。以上でございます。

○部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

前年度と比べて、何か大きく変わっている所はありますか？

○事務局

健康教育費の中のスマートライフプロジェクト、こちらの方が、少し予算を頂きまして取組みを進めております。

○部会長

別になければ、質疑を終了いたします。次に、平成26年度保健事業について、議題といたします。事務局、説明願います。

○事務局

平成26年度保健事業についてご説明いたします。

資料2の1ページ目の「1. 保健福祉センターの利用状況」をご覧ください。

事業等の利用状況であります。表の一番下に記載しています合計数の利用者の推移をご覧ください。平成24年度、25年度に比べ、平成26年度は利用件数、利用者数とも、若干減少しております。

健康相談の利用状況では、平成25年度に比べ、利用件数が、かなり少なくなっています。これは、事業の見直しにより、ことばの教室の利用者が、市内8ヶ所の発達支援事業所への適正な場所への利用となったためです。

また、地域包括支援総合センターの機能については、平成25年度より帯広市役所本庁舎の高齢者福祉課へ機能が移っております。

障害者生活支援センターについては、体制の見直しにより、職員の配置が平成25年度1名に減っていたものが、平成26年度は1名増の2名となっております。(27年度はイベント体制の強化のためさらに1名増)

次に、「2. 感染症などの予防」をご覧ください。

予防接種の実施状況では、平成26年度10月から定期接種となりました水痘ワクチン、平成25年度から定期接種となったヒブ・小児用肺炎球菌ワクチンや、生ポリオから不活化ポリオとそれに伴う、三種混合から四種混合への変更が反映されております。他は、例年通

りの推移となっております。

次に、2ページ目をご覧ください。

結核検診の実施状況につきましては表のとおりとなっております。

インフルエンザ予防接種の状況ですが、中3、高3と65歳以上の高齢者に対する接種事業を実施し、実績は記載のとおりとなっております。

成人用肺炎球菌予防接種は平成26年度10月に開始となり65歳以上5歳刻みの年齢の高齢者に対象に実施していますが、年度途中での開始であったこと、対象年齢がわかりづらいこと等から、対象者へ個別に周知しています。実績は記載のとおりです。

エキノコックス症検診の実施状況については、表をご覧ください。

2ページ目中段、「3. 生活習慣病の予防」をご覧ください。

健康教育の実施状況では平成25年度に比べ、企業からの依頼が多く、増となっております。

健康づくり講座・教室では、表のとおりの実業を実施してきております。

糖尿病予防講座は年々減、働き盛りの方が仕事等で来れず、夜の講座参加者が減っています。

27年度からは、個別対応としています。

3ページをご覧ください。

健康相談、訪問指導、身体障害者体力向上のためのトレーニング事業につきましては、表のとおりとなっておりますのでご覧ください。

次に、検診の実施状況であります。それぞれの検診で増減ありますが、全体としては横ばいとなっております。市民検診・健康診査の保健指導も記載のとおりであります。

4ページをご覧ください。

「4. 自殺対策」では、平成25年度から「ゲートキーパー研修会」や自殺者の実態把握のための「地域分析」に取り組んでおり、平成26年度から自殺対策講演会・若年女性向け講座に取り組んでおります。

最後に、「5. 救急医療体制に関する実施状況」であります。

帯広市では、夜間・休日等における医療不安の解消と急病者の発生に対処するため、夜間急病センター運営事業や医療機関の協力を得て、在宅当番医運営事業や二次救急医療体制の確立をしております。

大きく事業内容が変わった点は、平成26年度4月から、休日における内科・小児科の診療を2医療機関で実施していた在宅当番制から移転改築した休日夜間急病センターでの診療に変更しています。説明は以上です。

○部会長

何か質問、ご意見は？ よろしいですか？ 別になければ、質疑を終了いたします。

○部会長

次に、第二期けんこう帯広21について、議題といたします。事務局、説明願います。

○事務局

資料3をご覧ください。

第二期けんこう帯広21は、「第六期帯広市総合計画」の分野計画として位置づけ、本市の保健予防の推進施策の柱としており、計画の期間は平成25年度から平成34年度までの10年間です。

「市民一人ひとりが、主体的に生活の質の向上に努め、健康づくりを進める社会環境を整備することにより、健康寿命を延ばし、健やかで心豊かに生活できるまちづくりを目指す」としてしています。

「糖尿病対策」、「がん対策」、「こころの健康対策」という3つの重点課題をおいており、各世代別健康づくりの目標についてまとめています。

平成25年4月よりスタートしておりますので、二年目となった進捗管理ですが、平成25年度実績、平成26年度実績を並べております。目標項目にむけた主な取組と関連事業につきましては、各課の取組について記載いたしました。

目標項目35項目中、21項目が毎年進捗を管理する項目となっております。健康推進課、各関係課、帯広保健所からのデータとなります。

平成26年度の実績による進捗結果ですが、全体的に順調に推進されておりますが、

特徴的なこととして、

糖尿病に関するそれぞれの指標において、H25年度と比較し、改善していますが特定保健指導の実施率については課題の残るところです。

次のページにあります、がん対策における指標につきましては、前年度と比較してがん検診受診率は増加しています。

こころの健康に関する指標におきましては、自殺者数は前年度と比較し減少となっております。

妊娠中やこどもの健康における指標では、低出生体重児は前年と比較し減少していますが平成22年と比較しては多い現状であること、飲酒をする妊婦が前年と比較し増加しています。

妊娠中の喫煙、3歳児のう歯については改善している結果となっています。

こども世代の健康では、肥満傾向にある学童は男女とも増加傾向にあります。

社会環境の整備として、20番については、スマートライフプロジェクトに賛同する企業団体の数となりますが、10年間で目標50社ですが、H26年ですでに27社と順調であるため、目標値の見直しも考えていきたいと思えます。

栄養食生活では、野菜の摂取量は、改善しています。

このように第二期けんこう帯広21は、おおむね推進しております。報告は以上です。

○部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

○専門委員

目標値の見直しは、どういう風に見直しますか。

○事務局

目標を50社としていましたが、途中で目標値を見直すことがあるのですが、もう少し多くの企業、団体が参加していただくよう50社ではなく、もっと多い数値をと、考えています。

○専門委員

わかりました。

○専門委員

先ほどの、肥満傾向ということですが、何が原因なのでしょう。

○事務局

そうですね。やはり食生活や運動との関係があるのだと思うのですが、これにつきましての進捗は学校教育の協力を頂いています。学校教育とも連携をとりながらどのように持っていったらいいのかということは検討する必要があると思えます。実は、データもすべての小学生のデータを頂いているわけではなく、地域差というよりはデータでいただいた小学校の結果がこのようなになっているということになっています。

○専門委員

全体の中のどのくらいの割合ですか？

○事務局

何校というのは、今はデータを持ち合わせてはいません。

○部会長

同じ学校からですか。

○事務局

そうです。

○専門委員

地域差ですか。学校は固定されているのですか。

○事務局

そうです。

○専門委員

（食事の）摂取量と、運動量のバランスが、ということでしょう。今の子は、動かない子は動かないでスマートフォンに向かって家の中にいるということです。

○事務局

単年度だけの比較では難しいので、これからも継続してみたいかなければと思っています。

○専門委員

今、こどもの健康とか、ロコモティブシンドロームは、学校教育課がやるんですか？今のまま大人になっていったらどういうことになるのかと思います。そのあたりのプログラムは学校教育課が考えることですか。

○事務局

学校教育の中のカリキュラムや、クラブ活動の中、子どもの健全育成のものなど、全体的に取り組んでいくということであると思います。

○専門委員

症状が出ているお子さんはどちらに行けばいいのですか？

○事務局

肥満と判定されたお子さんのことでしょうか？

○専門委員

要するに、運動能力だとか機能の面で、問題があるという場合、それはどこで改善してい

ったらいいものなのでしょうか。病院に行けばいいのですか？誰がやるのでしょうか。

○事務局

学校教育の中でも、そのあたりは課題としています。

○専門委員

そうですね。文科省でその辺はデータを取るとか言っています。学校教育の中でできるのでしょうか。疑問に感じます。

○専門委員

機能の面や精神面など、様々なことがからんできます。ある意味、子どもを丸ごとどのように理解するかということになってきます。これだけ見るとすごく心配です。単純な比較はできないにしても、総合的な理解ができることが必要になって来ると思います。例えば不登校の子も多くなっています。全然減らないです。子どもは相対して減っているはずですが。帯広市内にも小中併せて120人位不登校の子がいます。そういうこともすごく関わってくる。全体として不健康になっているというイメージがあり、それをどのように理解していったらいいのかと思います。そういうことだけの専門的な部会があれば。必要になってくると思います。

○事務局

そうですね。ご意見を頂きましたので。

○部会長

他には、何かありますか。

他になれば、事務局から。

○事務局

それでは、その他になりますけれども、地域包括ケアシステムの取り組みについて若干ご説明させていただきたいと思います。資料は、説明資料A 3判4枚と参考資料1冊となります。それでは、資料に沿って概要を説明いたします。

1ページ目は、システムのイメージと介護保険者（帯広市）の実施内容を示したものです。地域包括ケアシステムは、上段のイメージ図のように、団塊の世代が75歳を超える10年後、2025年に向け、高齢者が医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅や地域で暮らし続けられるように、「医療・介護・介護予防・生活支援・住まい」の五つのサービスを、一体的に受けられる支援体制、これを作っていくということになっています。

ここで言う地域ですが、日常生活圏域を基本としており、帯広市では8つの日常生活圏域があります。改めて説明させていただく機会もないので、今回、ご説明させていただきたいと思っているのですが、左下段に圏域図を示していますが、住区を組み合わせる各日常生活圏域を構成しています。住区については、参考資料「基礎データ」というのをお配りしているのですけれども、5ページを参照ください。

日常生活圏域については、市内東部に「東」「鉄南」日常生活圏域、中部に「西」「広陽・若葉」日常生活圏域、西部に「開西・西帯広」日常生活圏域、南部に「南」日常生活圏域、農村部に「川西・大正」日常生活圏域という構成になっています。

それぞれの日常生活圏域の現状に応じて、在宅医療・介護の連携をはじめ認知症施策や生活支援などの支援体制を構築する必要があります。

介護保険者（帯広市）が進める内容を下段右側に示していますが、介護保険者（帯広市）は、地域包括ケアシステムを構築するために次のことを行うとなっています。

表は「現行」と「これから」で比較しているものです。主な変更点は、現行の要支援者が利用する訪問介護、ヘルパーさんですね、通所介護、デイケアといわれていますが、こちらの方が介護予防事業が新しい介護予防・日常生活支援総合事業に変わり、利用対象者とサービス内容の組み換えを行い、今あるメニューから多様化したサービスにしていくということになります。

また、包括的支援事業の事業メニューは、現行の地域包括支援センター事業から3事業が加わり、「在宅医療・介護連携の推進」と「認知症施策の推進」、「生活支援サービスの整備事業」が新たに加わっております。

さらに、既存の地域包括支援センター事業の活動内容についても「地域ケア会議」が加わることにより充実を図っていくこととなります。

2ページですが、新しく取り組む事業についてスケジュールを示したものです。上部のまん中にある包括的支援事業、こちらを充実させていくということになります。3事業につきましては、27年4月から事業に着手し、30年4月までに完了する事となっております、介護予防・日常生活支援総合事業については、29年4月に事業を開始する予定となっております。

取組内容のうち、在宅医療・介護連携の推進を例に挙げると、①の資源の把握から⑧の二次医療圏内の町村連携の項目が27年から30年までに位置づけられています。新たな事業のスケジュールについてはこのようになっております。

続きまして、他の事業につきましては、国から示されている内容を参考に、帯広市の実状に応じたものを作り上げていく予定であり、これについては行政が単独で決めるのではなくて、多くの関係者や住民と話し合いながら進めていかなければ成り立たないと考えています。

3ページと4ページにつきましては、在宅医療・介護連携事業のこれまでの取組をまとめたものです。帯広市は、全国的な傾向と同様に2025年にかけて、74歳までの人口が減少して、75歳以上の後期高齢者の増加が予測されており、在宅医療は地域包括ケアシステムの不可欠な要素となります。在宅医療・介護連携事業は、地域での切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築を目指し、医療や介護の関係団体と協議をしながら進めていきます。

3ページは、10月末現在の住民データと、内科系医療機関数のデータとなります。住民データの詳細は、参考資料の冊子「基礎データ」に詳しく書いてございます。

資料左側のⅠの日常生活圏域における住民データについて、高齢者が多い圏域は、「広陽・若葉」、「南」、「鉄南」日常生活圏域になっています。また、Ⅱの内科系医療機関数については、「東」と「南」日常生活圏域が他の圏域と比較して多く、高齢者数と医療機関数の比率が日常生活圏域と合っていない現状があります。例えば「広陽・若葉」は内科系の医療機関が少ないのですが、高齢者の人口は多いというアンバランスが出ているということですね。

資料右側は、日常生活圏域の構成する住区の介護や障害施設入所者を除いた高齢化率と、18歳未満を含む世帯率の散布図となります。この図は、住区によって住民の年齢構成に違いがあることを示しています。図の中で、十字の点線が交差したところを帯広市の平均としてみると、比較する為に4つに区別していますが、右下が18歳未満を含む世帯率が低く、高齢化率が高い住区となります。点線矢印の方向が少子高齢化の進んでいる地区になります。図をみると、駅前住区が最もその傾向が強い住区になり、反対に豊成住区が最も少子高齢化が進んでいない、若い住区になります。

今後、市全体では、右下の方向にポイントが推移していきますので、それを踏まえた対策を取っていかねばならないということになります。

4ページ、最後になりますが、こちらは主に医療に関わる職能団体のところに出向きまして意見交換をし、まとめたものとなっています。9月から11月の2ヶ月にかけて、医師会をはじめ8つの職能団体との意見交換会を行いこの結果をまとめたものとなっています。意見交換の進め方は、始めに市から先ほど説明した「基礎データ」の分析結果などを説明し、その後、自由な形で意見交換を行いました。

意見交換の内容については、団体会員数や職能の役割、職能における現状と課題と地域包括ケアに向けての考えなど自由に意見をいただいております。特に現状の課題では、各団体から「専門スタッフの人材不足」や「在宅医療へ向けた関心の低さ」なども課題として意見が出されていきました。地域包括ケアシステムはすぐに出来上がるものではないのですが、みなさんの意見を伺いながら確実に進めていかねばならないというもので、その他

ですけれども報告させていただきました。

○部会長

包括ケアは幅広いですね。特別委員会とか作るのでしょうか。

○事務局

協議会などを、つくっていきます。

○部会長

では、みなさんご意見などありますか。

○専門委員

地域割りというのはどうなっているのですか？というのは、この行政区とか住区は、連合町内会とか、これと同じような地域割りって他にあるのでしょうか。これを見ると小学校の名前を使っていたり、地域の名前を使ったり、バラバラなんですけど、どうしてこういう割になったのかというのがわかりづらい。この中にも学校が2つも3つもからんでいたり、どうしてこんな分け方になったのかと思います。

○事務局

はい、これはもともとの帯広市の住区を使っているもので、このために新たに作ったものではないのです。住区を基に圏域というのが決まっていて、地域包括ケアセンターの担当圏域を決めています。

○専門委員

それは、地域包括ケアセンターの規模とか能力によって決められているのですか？単純にこういう住区が既にあるから、センターの建物の関係でという風に分けられているのですか。

○事務局

4つの地域包括ケアセンターの担当地域について説明させていただくと、東は東日常生活圏域と鉄南日常生活圏域を至心寮が担当しています。社会福祉協議会には、川北日常生活圏域と西日常生活圏域を担当していただいています。愛仁園は広陽・若葉日常生活圏域と西帯広・開西日常生活圏域、帯広けいせい苑には、南日常生活圏域と川西・大正日常生活圏域を担当してもらっています。人口や高齢者数のバランスを取った形で設定させていただいています。また高齢者の多いようなところにはサテライトと言って東の方には至心寮のサテライト、愛仁園さんでは開西、西帯広地区にサテライトを置くなど、地域の相談窓口を置いて対応しています。

○部会長

地域包括ケアを当委員会で担うのはどういう所になりますか。

○事務局

すみません。こちらは議題ではなく「その他」で、今回審議会の方でも説明させていただいているのですが、関連する地域医療部会、高齢者部会と、ここ（健康づくり支援部会）の3つに対してですね、このように進んでいるということのご報告でした。ですので、ここで議論するとかということではなくて、第6期の高齢者の計画策定で、合同部会として皆様に参加いただいておりますので、その中身を報告させていただいたところです。

○部会長

何かご意見は。よろしいでしょうか。その他、事務局から。

○事務局

次回の健康づくり支援部会の日程であります。来年2月を予定しております。委員、専門委員の皆様には改めてご案内をさせていただきます。

なお、昨年度の第6期高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定に係る合同部会では、何回も大変お世話になりました。委員、専門委員の皆様には、この場をかりてお礼申し上げます。

○専門委員

8つの職能団体との意見交換をしていますが、これは今後増やしていく予定は？

○事務局

もちろんです。今後ご意見を伺いたいと思っています。

○部会長

以上で予定されている議事は終了いたしました。本日はこれで閉会といたします。ありがとうございました。